

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成29年4月6日(2017.4.6)

【公表番号】特表2016-510594(P2016-510594A)

【公表日】平成28年4月11日(2016.4.11)

【年通号数】公開・登録公報2016-022

【出願番号】特願2015-561628(P2015-561628)

【国際特許分類】

C 12 N 5/10 (2006.01)

C 12 N 15/09 (2006.01)

A 61 K 35/17 (2015.01)

A 61 P 35/00 (2006.01)

【F I】

C 12 N 5/10 Z N A

C 12 N 15/00 A

A 61 K 35/17 Z

A 61 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月1日(2017.3.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ヘパラナーゼの組換え発現を含む $\text{e} \times \text{v i v o}$ で培養された細胞であって、該細胞内で内因性ヘパラナーゼが発現されないか、またはヘパラナーゼが組換え発現されると、ヘパラナーゼの既存の発現が過剰発現される、細胞。

【請求項2】

T細胞、NK細胞、またはNK T細胞である、請求項1に記載の細胞。

【請求項3】

$\text{e} \times \text{v i v o}$ で拡張されたT細胞である、請求項1に記載の細胞。

【請求項4】

腫瘍抗原特異的T細胞である、請求項1に記載の細胞。

【請求項5】

キメラ抗原受容体(CAR)特異的T細胞である、請求項1に記載の細胞。

【請求項6】

細胞療法の有効性を改善する方法であって、該療法のための細胞を、ヘパラナーゼが発現されるように改変するステップを含む、方法。

【請求項7】

前記細胞が、内因性ヘパラナーゼを発現せず、前記改変するステップが、ヘパラナーゼの発現を回復させる、請求項6に記載の方法。

【請求項8】

前記細胞が、内因性ヘパラナーゼを発現し、該ヘパラナーゼが、過剰発現される、請求項6に記載の方法。

【請求項9】

前記細胞が、腫瘍抗原特異的T細胞である、請求項6に記載の方法。

【請求項 10】

前記細胞が、C A R 特異的 T 細胞である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 11】

前記細胞療法が、がんのための細胞療法である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 12】

前記細胞療法が、固形腫瘍のための細胞療法である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 13】

治療有効量の治療用細胞を含有し、

該細胞が、ヘパラナーゼを組換え発現する e x v i v o で培養された細胞である、個体におけるがんを処置するための医薬組成物。

【請求項 14】

前記細胞が、

1) 内因性ヘパラナーゼを発現しないか、または

2) 内因性ヘパラナーゼを発現し、組換え発現されたヘパラナーゼが、過剰発現される

、

請求項 13 に記載の医薬組成物。

【請求項 15】

前記がんが、固形腫瘍を含む、請求項 13 に記載の医薬組成物。

【請求項 16】

前記細胞が、腫瘍抗原特異的 T 細胞である、請求項 13 に記載の医薬組成物。

【請求項 17】

前記細胞が、C A R 特異的 T 細胞である、請求項 13 に記載の医薬組成物。